

7月16日（水）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

今回の参加者のみなさん

龍田 健司先生（神沢中）、川野 祐二先生（本城中）、表 普一先生（東陵中）
佐々 孝先生（御田中）、阿比留慶治先生（山王中）、沖 知憲先生（日比野中）
丹羽 良平先生（当知中）、濱地 光大先生（富士中）、山下 剛史先生（沢上中）
佐藤 智久先生（日比野中）、橋本 昌美先生（日比野中）、佐藤 友哉先生（港北中）
浦谷 神佑先生（港北中）、吉岡 隆先生（はとり中）、金橋 凜佳先生（はとり中）
旦野 智啓先生（南陽中）、樽見 宗先生（有松中）、廣瀬 美結先生（神沢中）

秋の授業公開について

授業者の佐藤 智久先生（日比野中）から実践の構想について説明していただきました。

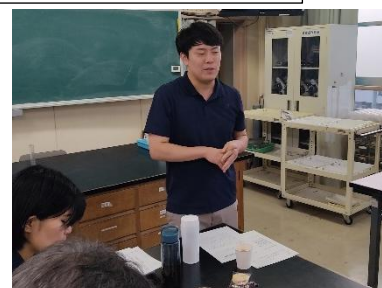
育てたい生徒像 「自ら問いを立て、探究することができる生徒」

○ 実践のねらい

- ・ 単元の学習内容に興味・関心をもち、自ら課題を設定し、探究可能な問いを作ることができるようにする。
- ・ 単元末に自ら立てた問いについて、主体的に探究学習に取り組めるようにする。

○ 課題、ご意見

- ・ 問いにつながるような事象提示、観察・実験を単元構想の段階で意図的に設定し、単元全体で体験的な活動を充実させたい。
- ・ 自分で問いを作ったり、探究を進めたりできるワークシートを作成したい。
- ・ OPPシート等を活用し、普段の授業で疑問をたくさん出させ、蓄積させたい。
- ・ 生徒に何を分かっている、何を分かっているのかを把握させたい。
- ・ 苦手な生徒への支援として、ある程度のヒントを用意しておいたらどうか。
- ・ 「なぜ〇〇なのか？」という問いは探究不可能なものが多いため、避けたい。



【実践の構想を説明する様子】

その後参加者が小グループに分かれ、自分が授業をするならどのような工夫をするのかについて話し合いました。

- ・ 多核細胞や無核細胞を紹介するなど、様々な細胞を観察させる。
- ・ 肉や野菜などの硬さの違いに着目させる。
- ・ 見てみたい細胞を挙げさせる
- ・ 双子葉類と单子葉類を比較し、どちらがより合理的かをディベートさせる。
- ・ 目で見て手を握るまでの時間を計算させる。
- ・ 陸上競技で0.1秒以内はフライング判定になる理由を考えさせる。

名理会 秋の授業公開

令和7年10月21日（火）午後 場所：日比野中学校 授業者：佐藤智久先生
実践単元：中2「生命 生物の体のつくりとはたらき」 みんなで探Qクラブ